

Prosthodontic Meeting for Next Generation 2025

in 滋賀

プログラム ・ 抄録集

令和 7 年 3 月 28 日 (金), 29 日 (土)

琵琶湖グランドホテル

主 催 公益社団法人日本補綴歯科学会
大会校 大阪歯科大学 欠損歯列補綴咬合学講座
大会事務 日本補綴歯科学会特命委員会 II (若手育成)
Mail : dept-cr-br@tsurumi-u.ac.jp

目次

スケジュール	2
プログラム	3
会場	5
ご案内	10
抄録（特別講演）	12
抄録（研究発表）	14
抄録（歯科衛生士・歯科技工士の連携について）	18
抄録（JPS SCSC を通じて）	20

スケジュール

3月28日 (金)				3月29日 (土)			
会場	2階 (京線の間)	2階 (京友禅の間)	東館 1階 コンベンションホール	会場	2階 (京線の間)	2階 (京友禅の間)	東館 1階 コンベンションホール 正面玄関のホテル看板前
7:00							
8:00						朝食	
9:00							記念撮影
10:00					student clinical skills competition (JPS SCSC)を通じて		
11:00					グループ討論		
12:00					発表会・ 全体討論		
13:00					閉会式		
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
21:00							

7:00							
8:00							
9:00							
10:00							
11:00							
12:00							
13:00							
14:00	受付						
15:00	開会式						
16:00	特別講演 (特命委員Ⅱ委員長 小川 匠) (学術委員会委員長 澤瀬 隆)						
17:00	前大会報告 (特命委員 峯 裕一)						
18:00	研究発表 (各大学大学院)						
19:00	歯科衛生士と歯科技工 士の連携について						
20:00		情報交換会 (夕食)					
21:00							

プログラム

【1日目 (3/28 金)】

- 13:30-14:00 受付 2階「京錦の間」横
- 14:00-14:10 開会式 2階「京錦の間」
挨拶：小川 匠 (特命委員会)
前川賢治 (大会長)
事務連絡
- 14:10-15:10 特別講演 2階「京錦の間」
座長：小川 匠 (特命委員会)
『補綴治療計画とエンドポイント — 「おいしく食べる」を目指して』
講師：小川 匠 (特命委員会)
『補綴の治療計画ってむずかしい！？』
講師：澤瀬 隆 (学術委員会)
- 15:20-15:40 前大会報告 2階「京錦の間」
講師：峯 裕一 (特命委員会)
- 15:50-17:30 研究発表 2階「京錦の間」
座長：発表大学の指導教授もしくは指導医の先生
- 17:40-18:40 歯科衛生士と歯科技工士の連携について
座長：木原琢也 (鶴見大学)
- 19:00-20:30 情報交換会 (夕食) 2階「京友禅の間」

【2日目 (3/29 土)】

7:30 – 8:30	朝食	東館1階コンベンションホール
8:40 –	写真撮影	ホテル正面玄関
9:00 – 9:30	student clinical skills competition (JPS SCSC)を通じて 座長：四ツ谷 護 (特命委員会)	2階「京錦の間」
10:00 – 11:50	グループ討論・発表会 (学術委員会) 『今後の日本補綴歯科学会のあり方について』 座長：本田順一 (特命委員会)	2階「京錦の間」
11:50 – 12:00	閉会式 挨拶：二川浩樹 (副理事長)	2階「京錦の間」
12:00	解散	

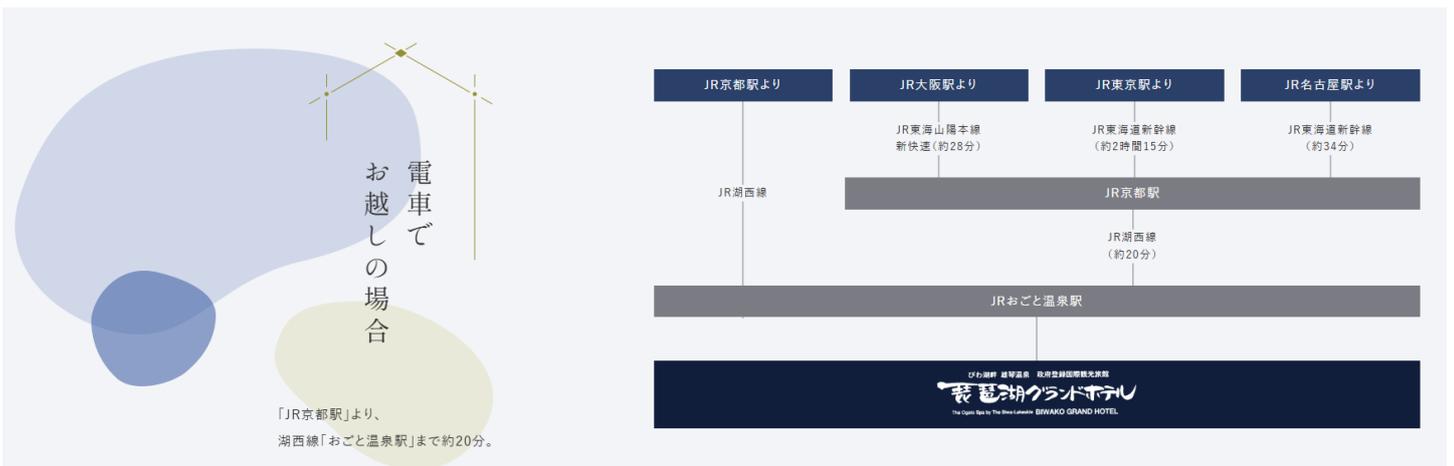
会場（アクセス）

【会場】

琵琶湖グランドホテル
〒520-0101
滋賀県大津市雄琴 6-5-1
TEL：077-579-2111
FAX：077-579-2161



駐車場は無料です



「JR おごと温泉駅」より、琵琶湖グランドホテル・京近江の無料送迎バスがあります。
「JR おごと温泉駅」に到着後、要連絡。

飛行機で
お越しの場合

伊丹空港より、
リムジンバスにて「JR京都駅」まで約50分。
関西国際空港より、
関空特急はるかにて「JR京都駅」まで約70分。
「JR京都駅」より、
湖西線「おごと温泉駅」まで約20分。



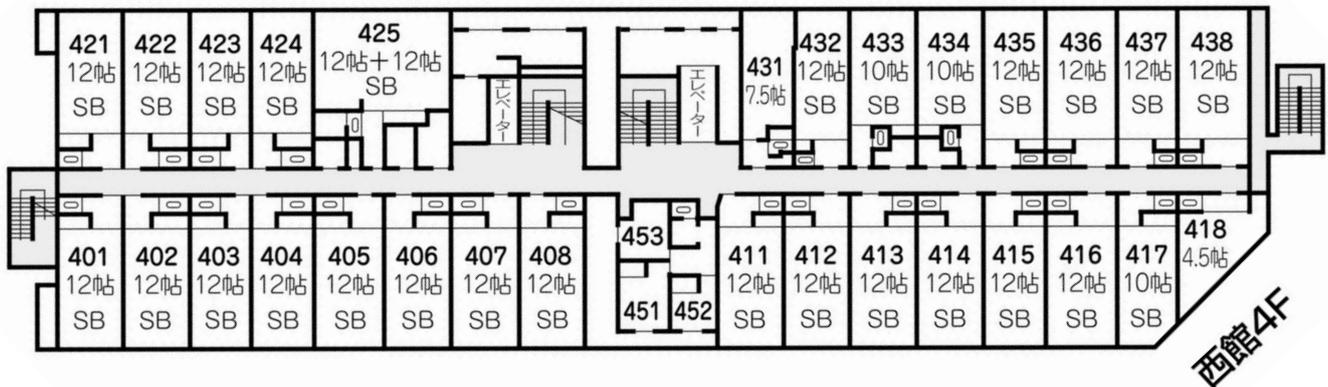
会場（館内）

琵琶湖グランドホテル 客室

〒520-0101 滋賀県大津市雄琴6-5-1
TEL.(077)579-2111 FAX.(077)579-2161

*SB=シャワーブース付客室
*WB=バス付客室

西館 4階



会場（館内）

温泉大浴場

びわ湖展望露天風呂付大浴場

- 男性用【伊吹の湯】京近江1階 24時間営業 サウナ付
 - 女性用【三上の湯】京近江2階 24時間営業 サウナ付
- ※サウナ営業時間 14:00～22:00 5:00～10:00



庭園露天風呂付大浴場

- 男性用【しゃくなげの湯】東館1階 23:30迄の営業
- 女性用【比叡の湯】西館1階 23:30迄の営業



大浴場ご利用時の注意事項

- タオルはお部屋からお持ちください。
- 営業時間に変更がある場合がございます。
- 男女の入替はございません。
- 刺青・タトゥーが入った方のご入浴はお断りしております。
- 貴重品はフロントでお預かりいたします。
- 大浴場内での撮影等をご遠慮ください。
- 温泉成分により足元が大変すべりやすくなっておりますのでお気を付けてください。
- 他、大小4カ所の貸切風呂がございます。 ※有料でのご利用となります。

館内施設のご案内

-  LAWSON 営業時間 7:00～22:00
- 夜食処【近江路】東館1階 営業時間 20:00～24:00 ※ラストオーダー23:30
- スナック【浜千鳥】東館1階 営業時間 20:00～24:00
- ラウンジ【柴式部】京近江1階 営業時間 20:00～24:00
- カラオケボックス【スウィートフィッシュ】東館1階 営業時間 20:00～24:00 ※飲食物のお持ち込みはご遠慮ください。
- ランドリーコーナー 西館1階 ※有料でのご利用となります。

その他

- フロント内線 222番
- 館内は浴衣・スリッパでご移動いただけます。
-  全館禁煙となっております。専用喫煙ブースをご利用ください。
-  ID : biwakogh PW : biwakogh

ご案内（参加者）

【参加される皆様へ】

- ・活発な質疑応答を行うためにノーネクタイでカジュアルな服装でご参加ください。
- ・会場へは駅からの無料送迎バスがございます。駅到着後にホテルまで連絡をお願いいたします。
- ・2階「京錦の間」の前に受付を設置します。
- ・受付にて参加章をお渡しします。
- ・プログラム・抄録集は、各自印刷のうえご持参ください。
- ・1日目の歯科衛生士と歯科技工士の連携終了後にチェックインをしていただきますので、手荷物は会場内の手荷物置き場をお願いいたします。
- ・2日目はチェックアウトの用意をして会場に荷物をお持ちください。
- ・会場内は禁煙です。所定の喫煙所をご利用ください。
- ・ご不明な点がございましたら、運営スタッフまでお申し付けください。

ご案内（発表者）

【口演発表者の皆様へ】

- ・発表スライドは、受付時に確認、受取をいたしますので、ご用意ください。
- ・次演者は次演者席に着席し、すぐに発表できるように準備をお願いいたします。
- ・発表時は演台上の PC をご自身で操作してください。
- ・質疑に関しては、座長の指示に従ってください。
- ・発表終了時および質疑応答終了時に、アラームでお知らせします。
- ・大学院の研究発表：発表時間は 7 分、質疑応答は 3 分です。
- ・歯科衛生士・歯科技工士との連携について：発表時間は 10 分、質疑応答は 5 分です。
- ・student clinical skills competition (JPS SCSC)を通じて：発表時間は 10 分、質疑応答は 5 分です。

●スライドの作成について

- ・PowerPoint を使用してください。
- ・動作不良の可能性があるため、動画などの特殊効果や音声利用はお控えください。
- ・文字フォントは PowerPoint に設定されている標準的なフォントを推奨いたします。
（例）日本語の場合：MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝など
（例）英語の場合：Arial, Arial Narrow, Century, Century Gothic, Symbol, Times New Roman など
- ・作成したデータファイルは「大学名 演者名」（例：冠橋大学 義歯太郎）としてください。
- ・発表データは、受付時に USB メモリーにてご提出ください。

●プレゼンテーションについて

- ・PC による発表（単写）とします。
- ・Windows の PC を用意しています。Macintosh を使用される場合は、ご自身の PC をお持ちください。

●PC 本体を持ち込まれる場合

- ・接続は HDMI となります。PC 本体の外部モニター出力端子の形状をご確認いただき、必要な場合は専用の接続端子をご持参ください。万が一に備え、AC アダプターおよびバックアップ用として各種メディア（USB メモリー）にデータを保存し、ご持参ください。
- ・動画および特殊なアニメーションがある場合は、不具合が生じることがありますので、ご自身の PC をご持参ください。なお、動画データなどの参照ファイルはすべて発表される PowerPoint のファイルと同じフォルダに保存ください。
- ・スクリーンセーバー、省電力設定、ウイルスチェックならびに起動時のパスワードは、予め解除しておいてください。

補綴治療計画とエンドポイント 「おいしく食べる」ことを目指して



講師 鶴見大学歯学部クラウンブリッジ補綴学講座 教授

小川 匠

略歴 1989年3月 鶴見大学歯学部卒業
1994年3月 鶴見大学歯学部博士課程修了
1994年4月 鶴見大学歯学部歯科補綴学第二講座 助手
2004年3月 留学（南カリフォルニア大学 顎顔面疼痛・口腔内科学）
2005年4月 新ハイテクリサーチセンター 顎口腔機能高次元解析室長
2007年4月 鶴見大学歯学部歯科補綴学第二講座 助教
2010年11月 鶴見大学歯学部歯科補綴学第二講座 講師
2011年4月 鶴見大学歯学部クラウンブリッジ補綴学講座 教授

【抄録】

補綴治療の目的は何か。この問いに対し、多くの臨床家は「咀嚼・発音・嚥下などの口腔機能の回復」と答えるだろう。適切な咬合関係を確立し、顎口腔系の健康を維持することは補綴治療の基本であり、その先の健康寿命の延伸につながるという考え方は、すでに広く認識されている。

しかし、セカンダリエンドポイントである健康寿命の延伸の前に、「おいしく食べることを実現することが重要である。補綴治療の目標を「おいしい食事の実現」と捉え直し、咀嚼に関わる食塊形成や嚥下、さらには呼吸までも視野に入れた補綴治療を考えることが求められるのではないだろうか。では、患者が「おいしく食べる」ために必要な補綴治療とは何か。そして、その状態を長期にわたり維持するためには、どのような工夫が必要なのか。

その根幹をなすのは、個々の患者に適した補綴治療計画の立案である。補綴治療は、教科書的には確立された学問のように見える。しかし、実際の臨床では、咀嚼機能などの口腔機能に審美性や耐久性をどのように調和させるか、どのように治療計画を立てるべきかといった課題が依然として残されている。日々の診療では、こうした課題に直面し、経験や知識を活かしながら試行錯誤を繰り返し対応しているのが実情である。

本シンポジウムでは、補綴治療の目的と、それを達成するための治療計画について皆さんとともに考え、補綴治療の本質について議論を深めていきたい。

補綴の治療計画ってむずかしい! ?



講師 長崎大学生命医科学域 口腔インプラント学分野 教授

澤瀬 隆

略歴 1989年 長崎大学歯学部卒業
1993年 長崎大学大学院歯学研究科終了
1996年 スウェーデンイエテボリ大学客員研究員 (2年間)
2009年 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 口腔インプラント学分野教授

【抄録】

医療面接と診察・検査の情報収集から、患者の病態を評価し、診断とともに、それに対する治療計画を立案する。これはPOSによる診療規範とされている。歯科医療のみならず医療の基本といわれている。しかしながら、補綴治療においては少し趣が異なると感じている。すなわち、咀嚼機能の回復においてはリハビリテーションの要素が大きく、患者の適応性が治療の成否に大きく関わる。また審美性の回復における成否は、患者の判断に委ねられるところが多い。ここが補綴治療の特徴的な点であり、かつ難しいところであろう。

学生教育の現場で、学生から「補綴の治療計画の立案がもやーっとしてよくわからない」という声を聞くことがある。教科書を紐解いてみると、医療面接と診察・検査からの情報収集、そして治療に影響する要因について、補綴歯科学会の症型分類も参照されて十分に示されているものの、治療計画の立案の具体を示すことは難しいようである。したがって実臨床では、得られた情報や持てる知識を経験により重み付けをして対応しているのが現状と感じる。ここが補綴の難しさであり、かつ面白さでもあると思うが、今回PMNG2025に参加された今後の補綴歯科学会を担っていく若手の先生がたと、「補綴の治療計画」を通して、歯科補綴学に求められる、臨床、教育、研究について考えてみたいと思う。

■医療ビッグデータ・リアルワールドデータ～解析までのワークフローと難所～

土山雄司¹⁾, 大野 彩²⁾, 下村侑司²⁾, 大森 江³⁾, 坂本和基³⁾, 福德朗大¹⁾, 大野充昭¹⁾, 窪木拓男³⁾

1) 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 インプラント再生補綴学分野

2) 岡山大学病院 新医療研究開発センター

3) 岡山大学病院 歯科・口腔インプラント科部門

近年、医療ビッグデータおよびリアルワールドデータ（以下、RWD）の活用が進み、薬剤の効果判定、医療費の適正化、医療技術・安全性評価など、多様な研究領域での活用が期待されている。しかし、これらデータを適切に解析し、信頼性の高い結果を導出するには、多くの課題が存在する。

そこで我々は、医療ビッグデータ・RWD を用いた解析のワークフローを整理し、各ステップにおける主要な難所とその対応策について検討することで、より精度の高い医療データ解析を実現するための指針を示す。

■BMP-2 が切り拓く再生医療 — 基礎研究から臨床実装へ

大野充昭¹⁾, 大野 彩²⁾, 土佐郁恵³⁾, 窪木慎野介¹⁾, 影浦充希¹⁾, 渡部彩夏¹⁾, 水口 一¹⁾, 窪木拓男¹⁾

1) 岡山大学学術研究院 医歯薬学域 インプラント再生補綴学分野

2) 岡山大学病院 新医療研究開発センター

3) 岡山大学学術研究院 医歯薬学域 口腔微生物学分野

骨形成タンパク質（BMP-2）を用いた骨再生療法は自家骨移植に代わる最も骨再生能力の高い治療法として期待されているが、日本国内で承認された rhBMP-2 製品はない。我々は、大腸菌発現系による正しい立体構造と活性を持つ rhBMP-2 の工業スケール製造プロトコルを確立し、GMP 準拠の治験薬を製造に成功し、2021 年 7 月に医師主導治験を開始した。本発表では、BMP-2 の基礎研究、臨床試験の成果を紹介する予定である。

■深層学習を用いた歯列形状の定量的解析

野村健一, 高岡亮太, 西村正宏

大阪大学大学院歯学研究科 クラウンブリッジ補綴学・顎口腔機能学講座

本研究では、深層学習を用いた TSegNet を用いて 3 次元歯列データをセグメンテーションして各歯の重心を抽出し、曲線フィッティングによる歯列アーチからの逸脱度を算出することで、不正歯列の定量化を試みた。106 例のデータを用いて ROC 解析を行った結果、AUC=0.73 を得て、歯列不正の判別性能が示された。本法は視診に依存せず歯列形状を定量化できることから、診断支援への有用性が期待される。

■地域在住高齢者における咀嚼運動習慣と認知機能との関連-コホート内横断調査-

西浦恵奈¹⁾、三野卓哉²⁾、黒崎陽子²⁾、徳本佳奈³⁾、山野恵莉菜¹⁾、長谷川陽子^{3,4)}、前川賢治²⁾

- 1) 大阪歯科大学附属病院補綴咬合治療科
- 2) 大阪歯科大学歯学部欠損歯列補綴咬合学講座
- 3) 兵庫医科大学医学部歯科口腔外科学講座
- 4) 新潟大学大学院医歯学総合研究科包括歯科補綴学分野

近年、「咀嚼運動習慣（よく噛むこと）が認知症の発症を予防する」という仮説が支持されつつある。しかし、従来の咀嚼運動評価には顎運動測定装置や筋活動測定装置などが用いられ、咀嚼運動を直接的、客観的かつ簡便に評価するのが困難であった。そこで、既存の咀嚼運動評価法の問題点を克服したウェアラブル型咀嚼計を用いて、咀嚼運動習慣と認知機能との関連の検討を目的に地域在住高齢者を対象としたコホート内横断調査を実施したので報告する。

■触覚伝送を用いた歯科技能教育システムの構築

横山 史¹⁾、木原琢也²⁾、井川知子²⁾、重田優子²⁾、重本修侗²⁾、河村 昇³⁾、柏木宏介⁴⁾、二川浩樹⁵⁾、大久保力廣⁶⁾、馬場一美⁷⁾、小川 匠²⁾、田中由浩⁸⁾、末瀬一彦⁹⁾

- 1) 鶴見大学歯学部歯学科5年
- 2) 鶴見大学歯学部クラウンブリッジ補綴学講座
- 3) 鶴見大学歯学部歯科技工研修科
- 4) 大阪歯科大学歯学部有歯補綴咬合学講座
- 5) 広島大学大学院医系科学研究科口腔生物工学分野
- 6) 鶴見大学歯学部口腔リハビリテーション補綴学講座
- 7) 昭和大学歯学部歯科補綴学
- 8) 名古屋工業大学大学院工学研究科／稲盛科学研究機構
- 9) 日本デジタル歯科学会

歯型彫刻実習の目的は、学生が歯の形態を彫刻することで、歯の解剖学的知識やその形を再現するための運動能力等を学ぶことにある。しかし、解剖学的知識を得ても、歯の形を再現するための運動能力を習得することは、感覚的であるため困難とされてきた。そこで、指先で何かに触れた際の微細な触覚を振動として伝える「触覚伝送技術」を用いることにより、指導者の彫刻感覚を学生が感じることで歯科技能教育システムを構築し、その教育効果について検討したため報告する。

■顎機能健常者における全運動軸と相補全運動軸の空間的特徴

荻原久喜, 重本修伺, 木原琢也, 井川知子, 熊澤龍起, 重田優子, 小川 匠
鶴見大学歯学部クラウンブリッジ補綴学講座

顎運動には, 上顎を基準とする「下顎運動」と下顎を基準とする「相補下顎運動」がある. 後者はあまり普及していないが, 補綴臨床では利用されていることが少なくない. CAD/CAM 技術の発展に伴い, 顎運動データを活用した補綴装置の設計が可能となり, 下顎運動に加え, 相補下顎運動の理解が求められる. 本研究では相補下顎運動の補綴臨床における意義を再認識するために, 顎機能健常者の全運動軸と相補全運動軸の空間的特徴を検討した.

■睡眠時ブラキシズムのデータベースに基づいた症型分類の検討

奥原志織, 高場雅之, 安部友佳, 小原大宜, 前嶋康平, 松山萌美, 馬場一美
昭和大学大学院歯学研究科歯科補綴学分野歯科補綴学部門

睡眠時ブラキシズム (SB) に関連したリアルワールドデータのビックデータ化を目的として, 国内7大学が参画するマルチセンター・プロジェクトを進めている. 本発表では, 本プロジェクトの前準備として昭和大学にて運用してきた咬筋筋電図による SB エピソード数, SB 関連臨床徴候, 生活・睡眠環境等の情報からなる SB データベース (n=130) とこれを用いた症型分類の試み, 今後の展望について紹介する.

■睡眠時ブラキシズムが咬筋の血流動態へ及ぼす影響

細川麻衣, 飯田 崇, 小見山 道
日本大学松戸歯学部 クラウンブリッジ補綴学講座

咀嚼筋の血流動態低下は開口障害等を引き起こす一因とされる咀嚼筋の筋・筋膜痛を惹起する可能性が示唆されている. しかしながらブラキシズムが咀嚼筋の血流動態低下を引き起こす可能性を検討した報告は少ない. 本研究ではウェアラブル筋電計を用いて”Definite Sleep Bruxism”の診断を行い, 睡眠時ブラキシズムの習癖が咬筋の血流動態へ及ぼす影響を検討したので報告する.

研究発表

■口腔内細菌由来 DNA による歯周炎およびインプラント周囲炎の発症機序解明

安保沙羅

東北大学大学院歯学研究科 分子・再生歯科補綴学分野

補綴歯科治療の長期的な成功を妨げる歯周炎やインプラント周囲炎はプラークの蓄積によって発症するが、プラークが歯周組織やインプラント周囲組織の炎症を引き起こす機構の全容は明らかになっていない。我々の研究グループはプラークに含まれる細菌由来 DNA が口腔粘膜の炎症を惹起する新たな因子である可能性に着目している。本発表では患者プラークに含まれる口腔内細菌由来 DNA が免疫細胞に与える影響を報告する。

■iPS 細胞由来の人工エナメル質を基盤とした新たな歯質再生法の開発

土井栞奈

東北大学歯学研究科 分子・再生歯科補綴学分野

究極の歯科治療として期待される歯胚再生の実現に向け、適切な細胞源の探索が続いている。iPS 細胞はその候補の一つであるが、機能的な歯胚構造の構築には未だ困難が伴うのが現状である。我々は、マウス iPS 細胞由来エナメル芽細胞とマウス胎仔由来歯原性間葉を相互作用させることで、効率的かつ成熟した歯胚の構築を実現している。本発表では、iPS 細胞から形成したエナメル質の組織学的な所見および今後の展開を報告する。

歯科衛生士・歯科技工士の連携について

■すれ違い様の高度顎堤吸収患者に対して全部床義歯を製作し咀嚼・審美障害を改善した症例

小堤涼平¹⁾，竹中広登²⁾

- 1) 長崎大学生命医科学域（歯学系）口腔インプラント学分野
- 2) 長崎大学病院医療技術部歯科技工部門

8020 運動の推進により全部床義歯装着患者の割合は大幅に減少している一方で、75 歳以上の高齢無歯顎患者の割合は一定数存在していることに加え、高難度症例は増加傾向にある。

本演題では、不適合義歯の長期使用により、すれ違い様に高度顎堤吸収が惹起された高難度症例に対して、院内歯科技工士と連携を図り、維持安定性の高い全部床義歯を製作することで、咀嚼・審美障害を改善した症例を経験したので報告する。

■3Dプリンターにより製作した暫間補綴装置を用いて前歯部軟組織の審美性を改善した一症例

野村健一¹⁾，馬場弘隆²⁾

- 1) 大阪大学大学院歯学研究科 クラウンブリッジ補綴学・顎口腔機能学講座
- 2) 大阪大学歯学部附属病院総合技工室

患者は 76 歳の女性。上顎右側中切歯の欠損およびそれに伴う顎堤吸収による審美不良を主訴として来院した。ポンティック基底面の形態を段階的に変化させた暫間補綴装置を 2 週間ごとに交換・装着することにより、最終的に頬側軟組織の厚みを 0.7mm 増加させることができた。以上より、軽度な顎堤吸収に対しては、外科的な介入を行わずとも、補綴的な手法により、欠損部軟組織の審美性が改善できる可能性が明らかとなった。

歯科衛生士・歯科技工士の連携について

■本学における歯学部と歯科衛生学科の学生による合同臨床基礎実習について

四ツ谷 護¹⁾，露木 悠¹⁾，菅野亜紀²⁾，志邨晃祐¹⁾，高野峻大¹⁾，関根秀志¹⁾

- 1) 東京歯科大学 クラウンブリッジ補綴学講座
- 2) 東京歯科大学短期大学 歯科衛生学科

昨今の超高齢社会において医療連携，チーム医療の重要性は増している．歯学教育においても，多様なニーズに対応できる実践的な臨床能力を持つ歯科医師の養成が求められている．そこで本学補綴科では，多職種連携の重要性を学ぶための第一歩として，歯科衛生士による診療介助のある状況下にて，学生がフォーハンドシステムの有効性を学修できる実習を実施した．介助者のいる環境が教育効果に及ぼす影響について検討したので報告する．

■デジタルデンティストリー時代の歯科医師と歯科技工士の連携～症例技工に必要な情報～

中田拓也¹⁾，木原琢也²⁾，河村 昇¹⁾，小川 匠²⁾，大久保力廣³⁾

- 1) 鶴見大学歯学部歯科技工研修科
- 2) 鶴見大学歯学部クラウンブリッジ補綴学講座
- 3) 鶴見大学歯学部口腔リハビリテーション補綴学講座

デジタル技術の普及により，補綴装置の製作方法はアナログからデジタルへ急激に変化し，歯科医師と歯科技工士の双方がデジタルを活用しながら臨床を行っている．そのデジタルワークフローの中で，歯科技工士が形態的・機能的に生体に調和した補綴装置を製作するためには，歯科医師と共有すべき情報があると考えられる．そこで今回我々は，デジタルを用いた補綴装置製作において歯科技工士が必要とする情報について臨床現場で生じた問題を交えながら報告する．

■本学の支台歯形成実習における臨床技能向上のための取り組み

四ツ谷 護, 志邨晃祐, 高野峻大, 関根秀志
東京歯科大学 クラウンブリッジ補綴学講座

当講座が担当するクラウンブリッジ補綴学実習では、支台歯形成は習熟すべき高頻度治療として教育している。しかしながら学生の理解度には個人差があり、画一的に教育効果を向上させるのは難しい。そこで教育方略の改善を検討し、支台歯形態の理想的なデザインを教員と学生間で共有することが重要であると考えた。本発表では、student clinical skills competition も含めた本学の支台歯形成の技能教育に関する取り組みについて報告する。

■JPS SCSC を通じて～学生にどう伝える？補綴の魅力～

平井由衣¹⁾, 井川知子²⁾, 小川 匠²⁾, 大久保力廣³⁾

- 1) 鶴見大学歯学部歯学科5年
- 2) 鶴見大学歯学部クラウンブリッジ補綴学講座
- 3) 鶴見大学歯学部口腔リハビリテーション補綴学講座

SCSC に向けた支台歯形成練習などを通し、自身は補綴治療の魅力を感じる機会が多くあったが、学生の中では補綴学に対して苦手意識を持つ声が多く聞かれる。国家試験対策を主流とした現在の学習カリキュラムの中で、なぜ学生達が"補綴"に対し苦手意識を感じているのか、また学生達の"補綴"へのイメージはどのようなものなのか、学生達へアンケートを行うことで調査した。調査から浮き彫りになった学生の本音と補綴の魅力を伝えるための課題について考察する。